

図1 落ち葉堆肥の作り方

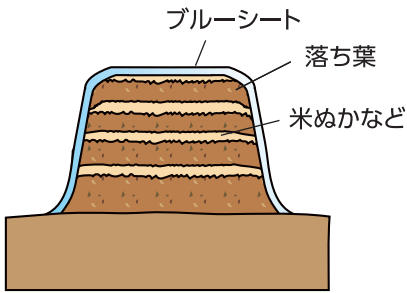


図2 生ごみ堆肥の準備

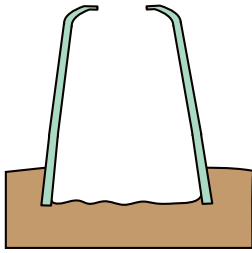
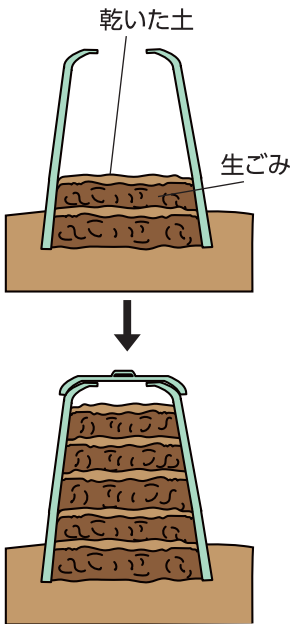


図3 生ごみ堆肥の作り方



【落ち葉堆肥の作り方】
 ①落ち葉を20cm程度の厚さに積む。
 この時、木板をコの字形に立てた堆積場や壁を利用すると落ち葉が散らばらず、便利です。
 ②落ち葉の上から、米ぬかや油か

【落ち葉堆肥とは】
 落ち葉堆肥は、落ち葉に米ぬか、油かす、骨粉などの有機質肥料を加えて発酵させたもので、肥料分を含んだ堆肥です。広葉樹の中でもケヤキやコナラ、クヌギなどが材料に適しています。



園芸研究家 成松次郎

【生ごみ堆肥の作り方】
 ①「コンポスター」などの名称で販売している釣り鐘形のプラス

【生ごみ堆肥とは】
 生ごみの90%以上は水分で、残りの大部分が有機物です。これを乾燥させて水分を飛ばし、米ぬかや油かすなどを加えて発酵させたものが生ごみ堆肥です。
 ごみの減量に役立つだけでなく、地力を高めることもできます。

すなど(落ち葉の約1〜2%の重さ)を重ね、水をたっぷりまいて踏み固める。
 ③これを繰り返して、高さ約1mまでサンドイッチ状に積み重ね、シートで被う(図1)。
 ④1カ月に1回ほど切り返し、約1年で落ち葉がボロボロに崩れてきたら完成です。


なお、生ごみ堆肥は窒素を5%程度含み、肥料効果が高いため、野菜などを栽培するときは、1㎡当たり3〜4kgにします。

③ 満杯になった後、1カ月以上放置しておく。一般家庭では、200ℓ程度の容器を2個用意し交互に使えば、一年を通してごみ処理と堆肥作りができます。

② 水を切った生ごみを投入し、同量の乾いた土や落ち葉を重ねて入れる。これを容器が満杯になるまで繰り返す(図3)。悪臭や虫の発生を抑え、ごみの分解を早めるため、米ぬかをまぶしましょう。
 チック容器やふた付のポリバケツの底を切り取ったものを、直径が大きい方を下にして、20cm程度の深さまで埋める(図2)。

肥料・農薬のご紹介

お申し込み忘れは
ありませんか?
とれ太郎



2,240円(税込)
(11月末現在・当用価格)

品質の良いお米を作るための作業は、収穫直後から始めなければなりません。中でも大切な作業は①有機物のすき込み、②圃場深耕、③土づくり肥料施用の3つです。

まず、稲わらなど有機物のすき込みは、地力維持に繋がります。次に圃場深耕は、水稻の根張りを良くするために重要です。15cmを目安に耕しましょう。

最後に、土づくり肥料の施用は、水稻生育に必要な養分を補うため必須の作業です。

当JAがオススメする土づくり肥料「とれ太郎」は、品質向上や倒伏防止に役立つ「クイ酸」を効率的に補給することができます。その他の成分もバランスよく含まれており、土づくりに効果的です。「とれ太郎」を散布し、来年産米の品質向上につなげましょう。

※詳しくは、各営農センターまでお問い合わせください